

平成25年度第2回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成25年度第2回木更津市史編集委員会

2. 開催日時 平成25年10月23日(水) 午後2時00分～3時30分

3. 開催場所 木更津市役所 6階委員会室

4. 出席者 市史編集委員会委員 出席9名

金子馨委員長、三浦茂一副委員長、成田篤彦副委員長、島立理子委員、
池田忍委員、川戸貴史委員、實形裕介委員、石井良幸委員、小河原茂之委員
教育委員会事務局7名
初谷教育長、能城教育部長、本多教育部次長、高橋文化課長、小高副主幹、
中能副主幹、寺原事務員

5. 議題及び公開又は非公開の別

報告1 第1回木更津市史編集委員会議事内容(公開)

報告2 他の自治体の市史編集事業(公開)

議題1 これまでの『木更津市史』の編集状況(公開)

議題2 市史編集業務の内容および検討事項の確認(公開)

その他(公開)

(非公開の理由)

6. 傍聴人 なし。

事務局(高橋文化課長)

定刻の時間となりましたので、ただ今より平成25年度第2回木更津市史編集委員会を開会いたします。

本日の進行を努めます文化課の高橋でございます。よろしくお願い致します。

本日の市史編集委員会は、椛山委員からご都合により欠席のご連絡がありましたのでご報告いたします。

会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項により成立しております。本日の会議は公開で行いますのでご了承下さい。

はじめに、初谷教育長よりごあいさつ申し上げます。

初谷教育長 7月1日の第1回木更津市史編集委員会に続いて第2回ということで、委員の皆様には、お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

先週は、台風26号の影響で、本市も大変大きな被害を被りました。また、今週末は2つの台風が日本列島を窺っている状況の中で、委員の皆様方には前回の台風の被害状況はいかがであったでしょうか。この場を借りてお見舞い申

上げます。

今日の会議ですが、第1回編集委員会の検討内容を踏まえ、近隣他市の市史編集業務、編さん状況を参考にしながら今後の市史編集業務内容、あるいは方向等についてご協力いただくよう事務局は計画しておりますので、よろしくお願ひします。

事務局（高橋文化課長）

金子委員長より、ご挨拶をたまわりたいと存じます。

金子委員長 委員の皆様には、色々とお仕事がある中、ご出席ありがとうございます。今、教育長から話しがありましたように、伊豆大島の台風災害が連日報道されております。最近、異常気象と見られるような現象が多く起こっているように感じます。また、中国では、大都市の大気汚染問題が報道されております。自然と人間との関わりについて改めて考えさせられます。

さて、本日は第2回木更津市史編集委員会ですが、前回の編集委員会資料に木更津市付属機関設置条例の抜粋が掲載されておりますが、条例で木更津市史編集委員会の担任する事務は、市史編集計画の審議と調査を行い、事業遂行に必要な事項を市長に答申又は建議することになっております。

従いまして、委員の皆さんそれぞれ専門の分野がありますが、直接、資料の調査や、研究に携わるということではなく、調査、研究を行うにはどうすれば良いのかということをご検討いただきたいので、市史編集基本計画や構想についてという市史編集事業全体にご配慮いただき、この点についてご意見をいただきたいと存じます。よろしくお願ひします。

事務局（高橋文化課長）

ありがとうございました。

それでは議事に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますので、これからの議事進行は金子委員長をお願いいたします。

金子委員長 これより議長を務めさせていただきます。

本日は、2つの報告事項と2つの協議事項について事務局から提出されております。

はじめに、報告事項について事務局より第1号、2号一括で説明願ひます。

事務局（高橋文化課長）

報告第1号といたしまして、今年度第1回木更津市史編集委員会議事内容について報告いたします。資料の1・2ページでございます。第1回木更津市史編集委員会は、7月1日(月)午後2時30分から市史編集委員会委嘱状交付式

のあと実施いたしました。

内容は、委員長、副委員長の選出と3つの議題について協議しております。委員の皆様から出された主な意見と、事務局からの提案内容については資料のとおりでございます。

また、これまでの『木更津市史』は、市制施行周年事業として刊行しております。参考といたしまして、80周年は、平成34年度、西暦2022年になりますが、現在本市では周辺自治体との合併を検討するため、合併特別調査委員会を設置し、合併について継続して調査・検討を行っております。

なお、第1回木更津市史編集委員会の詳細につきましては、会議録として市のホームページで公表しております。会議録のご希望があれば、委員会終了後に事務局までお申してください。

報告第2号については、小高総括より報告させていただきます。

事務局（小高副主幹）

報告第2号についてでございますが、資料の3から7ページになります。周辺自治体の編集状況と、関東圏内で、現在、編集事業を行っている自治体について調査したことを今後の『木更津市史』の編集の参考として報告します。

まず、周辺自治体としては、君津市と袖ヶ浦市で実施しております。君津市は、資料4ページのとおり、教育委員会の中に市史編さん室を設置し、昭和61年度から平成13年度までの16年間市史編集業務を行い、『通史編』に先立ち、『史料編』6冊と民俗及び生物の調査報告書11冊を刊行し、その後、『通史編』4冊を刊行しております。

職員は、兼務と専従職員を配置し、市史編集業務終了後、解散しております。

袖ヶ浦市は、資料5ページのとおり昭和53年度から平成2年度までの13年間は『袖ヶ浦町史』、市制施行後の平成3年度から平成12年度までの10年間で『袖ヶ浦市史』を刊行しております。

刊行物としては『市史研究』を最初に刊行し、その後、『史料目録』8冊、『基礎報告書』2冊、『史料編』3冊を刊行して、『通史編』3冊を刊行しております。袖ヶ浦市も教育委員会に市史編さん室を設置し、主な編集業務は出版会社に委託しております。

また、職員は兼務と専従職員を配置しております。なお『市史研究』は現在も刊行しており、市史編さん室は郷土博物館に帰属させています。

八王子市は、平成19年度から平成28年度の計画で、市制施行100周年を記念として事業を開始しております。事業の推移については、資料3ページ

のとおり平成19年度に地域の研究者から意見を聴取し、平成20年度に市史編さん審議会と編集委員会を設置しています。

市史編さん室は、資料6ページのとおり市長部局に設置し、正規職員9人、嘱託職員6人、臨時職員13人の体制で、刊行物は『本編』8冊、『資料編』6冊を計画しております。

また、刊行年度は資料7ページのとおりで、『資料編』を刊行後、『通史編』を刊行し、調査期間は分野ごとに2年から4年行う計画になっています。

八王子市は、現在市史編集事業を実施しておりますので、大いに参考になると思っております。報告第2号は、以上でございます。

金子委員長 事務局より、2つの報告について説明がございました。質問、ご意見があればお願いします。

三浦副委員長 報告第2号の君津市の市史編さん事業経過ですが、『袖ヶ浦市史』では『資料目録』を刊行しているが、『君津市史』ではどうであったのか。

事務局（小高副主幹）

『君津市史』では、『資料目録』として個別に刊行しているものはございません。

島立委員 『君津市史』の資料目録ですが、市史編さん担当に問い合わせると資料目録は出てきます。ただ冊子としては刊行しなかったということです。

（後日、事務局にて君津市教育委員会文化振興課にて資料目録の提示をしていることを確認する。）

三浦副委員長 『図説 木更津のあゆみ』の編集では、『資料編』や『通史編』に掲載されている資料を改めて調べるには、『資料目録』は非常に便利で大切であることを痛感しております。

石井委員 『袖ヶ浦市史』本編の1冊あたりの印刷製本費は、どういう意味ですか。

事務局（小高副主幹）

1冊刊行するため、諸経費を含めた総額と伺っております。

成田副委員長 『袖ヶ浦市史』の編集事業にかかる費用総額を見たとき、『木更津市史』の場合ほどのくらい見込むのか、1世帯で割り返すとどうなるのか。

事務局（小高副主幹）

『木更津市史』編集・刊行費用総額については、今後の木更津市史基本構想や、方針についての検討を踏まえ、費用総額を算定した上で回答します。

成田副委員長 袖ヶ浦市史編さんでは、業務委託を実施しているということですが、詳しく説明願いたい。

事務局（小高副主幹）

事務局は、市に置かれておりますが、業務実施にかかわる職員の雇用や編さんに関わる作業や、印刷製本・編集等について出版社へ委託しております。また編さん業務場所は郷土博物館の一室を利用して実施しております。

実形委員 袖ヶ浦市史の編さんについて携わっておりましたが、印刷製本業務は業者で、資料収集や調査、研究、保管などは郷土博物館の一室で実施しておりました。

君津市は業務終了後、寄贈された古文書については図書館で保管し、それ以外は返却しておりますが、袖ヶ浦市では編さん終了後も郷土博物館の収蔵庫で寄贈資料と借用継続資料についてはそのまま保管しています。

木更津市も、資料の保管や撮影、研究等の作業ができる場所の確保が必要になってくると思います。

金子委員長 他に、質問がなければ、本日の議題について事務局の説明をお願いします。

事務局（高橋文化課長）

議題第1号について、小高総括より説明させていただきます。

事務局（小高副主幹）

議題第1号についてでございますが、資料の8から12ページになります。

これまで、木更津市では昭和47年度に『木更津市史』、昭和57年度に『木更津市史富来田編』、昨年の平成24年度に『図説 木更津のあゆみ』を刊行しております。

各冊子の内容については資料8ページのとおりで、この3冊を比較すると昭和47年度の『木更津市史』を基本に自然、歴史、民俗、人物、文学、宗教に分類されて構成されております。

ただし、指定文化財、民具、石造物、彫刻、絵画、建築物そして食物の7項目についてはあまり触れていないのが現状です。

また昭和47年度の『木更津市史』には、宗教一覧として社寺について記載されておりますが、内容は法人一覧にとどまっており、詳細はあまり記されておられません。

次に『木更津市史』が刊行されたあとの市史編集委員会と事務局の動向ですが、資料9・10ページのとおり平成8年度から平成15年度までの8年間、中学校区ごとに悉皆調査を行っております。

また、11ページのとおり市史編集委員会編として『木更津市史資料抄報』を5冊刊行しております。なお、石造物について今の郷土博物館の前身であります金鈴塚遺物保存館で『報告書』6冊を刊行しております。

また、参考として市の刊行物としては『市勢要覧』『広報紙』等があり、発行も戦後まもない頃からであり、当時の記録として見直すことができる重要な資料と思われます。

なお、悉皆調査は全ての中学校区で行っておらず、また実施したところも調査記録をみると一部の地域と分野にとどまっていること、また自然については行っておりません。

以上のことを踏まえて、今後どのような取り組みが必要かをご検討いただきたいと存じます。議題第1号の説明は、以上でございます。

金子委員長 事務局より、議題第1号について説明がございました。質問・ご意見があればお願いします

成田副委員長 木更津市文化財悉皆調査を各中学校区で概ね2年間実施したということですが、2年間でどのくらい調査を実施したのか。

事務局（小高副主幹）

調査記録を確認した上で後日回答したい。（文化財悉皆調査は、年4回現地調査と2回の会議を実施。ただし、平成11年度の現地調査は2回実施する。）

島立委員 これまで、文化財悉皆調査を実施しているようだが、調査結果報告、調査資料等の内容が公開されていないのが残念。今後は、調査結果等のデータを公開する作業が必要になってくると思う。そのための体制作りも必要だと感じます。

事務局（小高副主幹）

編集委員の皆様のご意見を伺いながら事務局として検討したい。

三浦副委員長 『木更津市史資料抄報』1の根岸区有文書調査の目録を見て地租改正資料があることがわかり、『図説 木更津のあゆみ』でも地租改正について原稿執筆した。調査目録があったことで非常に助かりました。

實形委員 これまでの文化財悉皆調査は所在情報のカード作成までで、資料目録作成にいたっていないということですよ。今後は資料目録を作成するための作業が必要になってきます。このうち、犬成地区の三枝家については、郷土博物館金のすずが千葉県立上総博物館であった頃、上総博物館で目録化されているはず。あとは中郷地区の有吉寺行人宿や、井尻の鳥海三家については『千葉県史』で少し調査が入っているので、そこから情報提供を受けることができます。

そして、悉皆調査で資料情報が出るわけですが、木更津市は旧高旧領取調帳に基づいて幕末期の村数は66ヶ村あり、最低でも66の名主が存在したということになり、本格的に『木更津市史』を編集するとなると満遍なく資料所在確認をするので調査期間がかかることになります。まずは重要な資料の収集を

始めたり、地元の方々に、旧名主家についての所在聞き取りと資料調査を並行して実施するということになり、そのため、資料目録の作成を手始めに実施するということになるので、調査期間をどれだけ要するかを決める必要があります。

金子委員長 資料の収集や調査について、今後の『木更津市史』編集の基本となることについて委員の方々から意見がでました。議題第1号について、他に質問・意見がなければ、議題第2号について事務局の説明をお願いします。

事務局（高橋文化課長）

議題第2号について、小高総括より説明させていただきます。

事務局（小高副主幹）

議題第2号についてでございますが、資料の13・14ページになります。

これは、前回の市史編集委員会の議題3として説明した、今後、委員の皆様が市史編集業務を進めるにあたり、ご検討いただく内容が以上のものでよいか、不要なものあるいはこの他に加えるべきものがあるかを検討いただくため議題として提出いたしました。

なお、今後の予定につきましては、検討事項を決めた上で今後策定が見込まれるものでございます。議題第2号の説明は、以上でございます。

金子委員長 事務局より、議題第2号について説明がございました。質問・ご意見があればお願いします。

川戸委員 部会の中での調査員、執筆員、事務局の人数等予算の中で決まりますが、事務局として規模のイメージがあれば教えていただきたい。

事務局（小高副主幹）

今の段階では、組織の内容・規模についての案は用意しておりません。参考として、『図説 木更津のあゆみ』を刊行するにあたり、編集組織を原始古代、中世、近世、近現代、民俗、自然の6つの班に分けて実施しております。また各班の構成は、近世班は委員1名、他の5班は委員2名、調査執筆員は原始古代班14名、近現代班8名、他の4班は5名です。またこれとは別に市史編集ボランティアとして17名の方々に登録していただき、調査等にご協力いただいております。事務局側は兼務職員として、総括職1名、事務職1名の合計2名体制で対応しております。

金子委員長 議題第2号について他に質問・意見がなければ、その他といたしまして、私のほうから一つ。前回の市史編集委員会におきまして、成田副委員長から「自然部門の早急な調査を」といったご意見が出ておりましたが、対応について対

象物の選定と調査の順番ですとか、地域はどこから始めるのか。調査員の選定などについてご意見をお願いします。

また、自然部門以外での早急な調査が必要なものがあれば、ご意見をお願いします。

實形委員 事務局としては、調査などの実際の活動を今年度どこまでやると考えているのか教えていただきたい。

事務局（小高副主幹）

調査員報酬について予算措置をしておりますので、調査対象や期間の決定、調査員の選定等ご意見をいただいたうえで、実施したいと考えております。

三浦副委員長 自然に関する調査で成田副委員長のお考えがあればお聞かせください。

成田副委員長 『図説 木更津のあゆみ』を編集する際の自然班メンバーで、現在も独自に調査を継続しておりますので、メンバーと検討したいと考えております。

三浦副委員長 これまで、木更津市が刊行した冊子では宗教関係の記載が少ないとのことでしたが、たとえば八劔八幡神社（市内富士見所在）所蔵資料の目録作成と公開（刊行）をしたい。また市立図書館所蔵の重城家文書の目録作成を自主的に行っておりますが、これも市史編集事業の中で刊行してもらいたい。また、請西藩に関する資料を郷土博物館金のすずで開催する企画展「幕末の木更津」（11/2～12/26）に展示するため借用していると伺っておりますので、この請西藩に関する資料調査も木更津市史編集事業の中でやってもらいたい。こうした作業を、基本構想の策定と並行して実施してもらいたい。『資料目録』が今後の編集作業の骨格となるので目録作成作業を早めに行い、市制施行周年事業を目途に新たな『木更津市史』を刊行するのであれば、急場しのぎにならないようしっかりしたものとして進めるべきです。

石井委員 11月2日から開催する企画展「幕末の木更津」ですが、所蔵者から50点程資料を借用しております。企画展終了後も継続して借用し、郷土博物館金のすずとして『資料目録』を作成する予定です。

實形委員 今回借用した請西藩関係資料は50点ということで、所有者宅に現存する資料数はこれ以上と思いますので、これを取り掛かりとして、所有する資料全容の把握が進められれば良いと思います。

また、郷土博物館金のすずと木更津市史編集事業と連携して資料目録の作成作業を進め、全体像が把握できれば今後の市史編集作業にも便が図れるのでは。

また、郷土博物館金のすずの企画展「上総の国古文書」（仮称。平成26年3/15～5/6予定）を予定していると思いますが、郷土博物館金のすずが資

料所有者とのつながりを持っているでしょうから、木更津市史編集事業と連携して、目録作成作業を実施すればと思います。

やはり、調査員や執筆員をすぐに決めるのは難しいので、協力できる方をどう集めるかということが最初の取り掛かりになる。市史編集の理念は、市民と一緒に作るということになりますので、ボランティアや市史編さん協力員を募る。市民の中には、古文書を扱える人、解読できる人もおりますので、そのような方々の協力を得ることが市民との協働の推進につながると思う。今年度は、こうした協力者の募集と、成田副委員長や三浦副委員長が言われた調査や資料目録作成作業と並行して行う。そして目録作成の取り掛かりとして郷土博物館金のすずで借用している請西藩関係資料について始めるのが良いのではと思います。

金子委員長 委員の方々から、貴重なご意見をだしていただいておりますが、木更津市史編集には、資料収集と『資料目録』が事業の骨格になるので、こうした作業が急務だと一貫して意見が出されました。また、これには、調査員、ボランティアについて考えなければならないと意見が出ましたが、他にございませんか。

成田副委員長 自然についてですが、たとえば貝類のマシジミは非常に少なくなっている。この状態がどうなっているのか。絶滅が危惧されるものがありますので、こうしたところから始めたい。調査案を事務局に提出しますので、これを検討していただくということによろしいですか。

事務局（小高副主幹）

第1回木更津市史編集委員会でのご意見で、自然については早急に調査実施すべきということでしたので、基本構想の策定等と並行して進めたいと考えておりますので、調査案をご提示ください。

金子委員長 各委員の意見も本日のところは出尽くした感がございます。ここで、第1回木更津市史編集委員会にご欠席された池田委員から自己紹介をお願いします。

池田委員 千葉大学の池田です。市史編集に携わるのは初めてです。今日の委員会で委員皆様の意見を聞きながら、専門的見地から関わるのは難しいと思いますが、これまで刊行された『木更津市史』の中で足りない部分をどのように補えばよいか、よりよいものを作るにはどうすればよいかについて委員の方々を取り組んでいることがわかりました。協力できることは行いたいと思います。

金子委員長 事務局からその他として何かございますか。

事務局（高橋文化課長）

特にございません。

金子委員長 本日の審議について、このあたりで終了いたします。事務局は、本日の意見を整理し、次回の木更津市史編集委員会の議題内容の検討をお願いします。

また、本日の委員から出された意見・質問を踏まえ、新しい『木更津市史』の編集に取り組むことを要望いたします。

それでは、本日の議事は以上で終了となりますので、議長の職を解かせていただきます。ありがとうございました。

事務局（高橋文化課長）

金子委員長ありがとうございました。以上を持ちまして、第2回木更津市史編集委員会を終了させていただきます。

なお、次回の木更津市史編集委員会の開催は来年1月頃を予定しております。開催のご案内は、後日発送させていただきますのでよろしくお願いします。

委員の皆様方には、長時間にわたりご審議をいただき誠にありがとうございました。

平成25年10月23日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 金子 馨